



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

今週の概要

- 第 31 週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病
- 病原体（ウイルス）検出情報（7 月）

第 31 週の感染症情報（7 月 29 日(月)～8 月 4 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	4.82	→	→～↑	→	↓
2	ヘルパンギーナ	2.29	↑	↑	↑	→
3	感染性胃腸炎	2.24	→	→	→	→～↑
4	水痘	0.50	→	→～↑	→～↓	→～↑
4	突発性発しん	0.50	→～↑	→	↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数（30→31 週）は 194→224 例と推移した。上位 5 疾患は ①手足口病（93→96 例）（定点あたり 5.65 と警報基準 5 を超えている。）②ヘルパンギーナ（45→52 例）、③感染性胃腸炎（26→32 例）、④水痘（7→12 例）、⑤伝染性紅斑（0→9 例）、眼科定点の報告は流行性角結膜炎が 4 例あった。基幹定点の報告は無菌性髄膜炎が 1 例あった。

（有山 記）

県中部地区概況 報告数は 152 例で、前週報告の 177 例から減少。上位 5 疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④咽頭結膜熱＝突発性発しんの順。手足口病の定点当たりの報告数は 4.57 と減少したが、なお警報レベル継続中。突発性発しんの報告数（7 例）は、増加。感染性胃腸炎の報告数（41 例）は、ほぼ横ばい。咽頭結膜熱の報告数（7 例）も、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（75→88→64 例）と、増減の繰り返し。ヘルパンギーナの報告数（19 例）は、減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が各々 1 例ずつ計 2 例あったが、両管内基幹定点からの報告は、共になかった。

（村井 記）

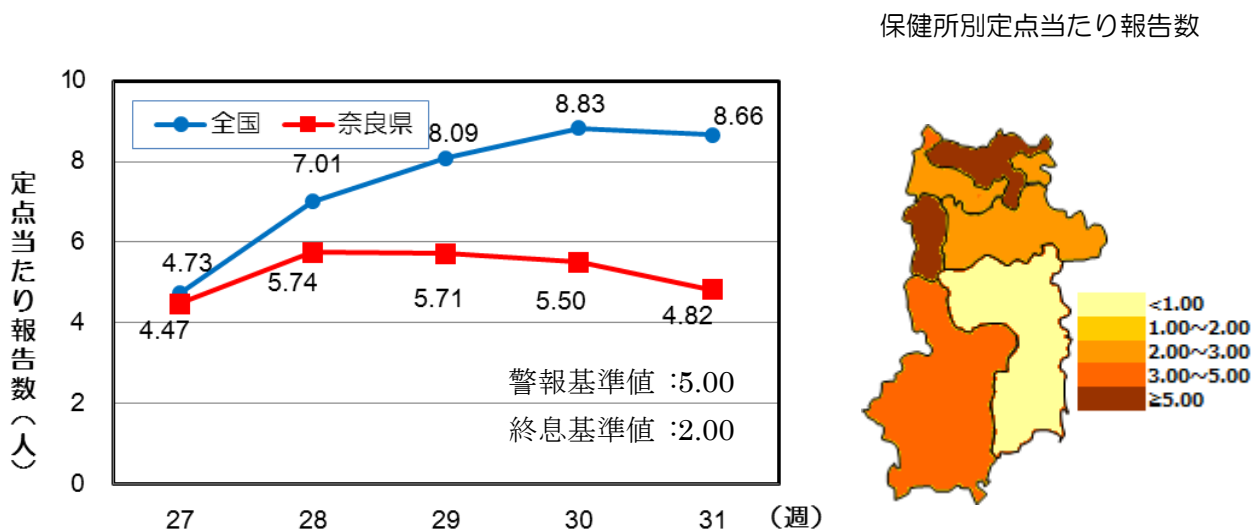
県南部地区概況 報告数（30→31 週）は 11→18 例と推移。報告のあった疾患は、
 ①ヘルパンギーナ（1→7 例）、②手足口病（6→4 例）、③感染性胃腸炎（2→3 例）、
 ④突発性発疹（1→3 例）、⑤水痘（0→1 例）であった。

（柳生 記）

《流行感染症情報：手足口病》

第 31 週の奈良県全体における定点あたり報告数は 4.82（報告数 164）となり、
 警報基準値は下回りましたが、終息基準値を上回っており、警報発令中です。

一方、ヘルパンギーナが8週連続増加傾向にあります。特に奈良市保健所、内吉野
 保健所では報告数が多くなっており、今後注意が必要です。



感染症情報センターホームページ
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 7 月）】

病原体定点医療機関から保健研究センターに搬入された検体について、7月に検出したウイルスは以下のとおりです。

（平成 25 年 7 月検出分）

検出病原体		北部	中部	南部	その他	臨床診断名
アデノ	1		1			熱性けいれん(1)
コクサッキー	A6	2	1			ヘルパンギーナ(1)、手足口病(2)
エンテロ	71	3	1			手足口病(4)
ノロ	GII		2			感染性胃腸炎(2)

